

卒後3年目からの研修プログラム

形成外科を選択された場合の将来像

形成外科は医学の中では比較的新しい学問ですが、近代の進歩した医療のエッセンスと合理性が集約された診療科です。形成外科分野は今なお飛躍的な進歩を続けており、**スーパーマイクロサージェリー**、リンパ管吻合、再生医療等、以前は不可能であったことが日々可能になっています。そして、形成外科の知識と技術を身体のありとあらゆる領域に



役立てることができます。

今後も本人の努力次第で新しい手技や治療法の開発が望める非常に魅力的な分野であるといえます。

形成外科学教室では、入局希望者の定員枠の制限を設けることなく後期研修医を受け入れ、入局者には原則的に**4年間（専門医ストレートコース）**もしくは**6年間（大学院・専門医コース）**の2つの研修コースを用意しています。

後期研修プログラムでは、下記の様な到達目標と研修内容を設定しています。形成外科領域全般にわたる専門的知識および技術が、バランスよく習得できる様に配慮されています。特に、当教室では頭蓋顎顔面外科領域における豊富な手術件数を有しております。

一般目標

- ・形成外科の専門的知識および技術を習得し、日本形成外科学会専門医を目指す。

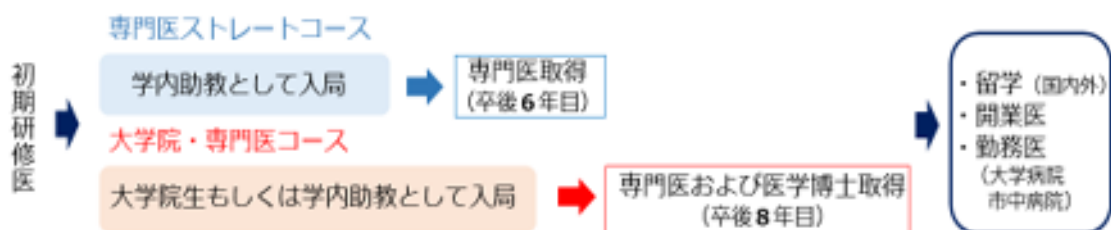
個別目標

- ・日本形成外科学会に入会し、研修開始届けを提出する。
- ・形成外科疾患の保存的および手術的治療を習得するため、外来診察を担当し、入院患者を主治医として受持ち、診断・治療・患者説明を行う。
- ・代表的疾患において、血液、培養、X線、CT、MRI、エコーの所見が診断できる。
- ・形成外科基本手技（局所麻酔法、縫合法、ドレッシング法、抜糸、術後の創管理、植皮術、皮弁術）を行うことができる。
- ・急性外傷性疾患（顔面・手外傷、熱傷）のプライマリーケアができる。
- ・慢性潰瘍性疾患（下腿潰瘍、褥瘡、リンパ浮腫など）のプライマリーケアができる。
- ・外来小手術（皮膚腫瘍摘出術、瘢痕修正術、陥入爪根治術など）、すなわち**皮膚外科が執刀医として研修1年目から手術できる。**
- ・外傷（顔面骨骨折、顔面神経断裂、熱傷、切断指など）、腫瘍切除後の再建（頭頸部癌、食道癌、乳癌、皮膚癌など）、外表先天異常（顔面、四肢、体幹など）、その他（眼瞼下垂、涙管損傷、眼窩周囲の腫瘍切除、目の美容など）における（1）手術時期（2）病態（3）手術解剖（4）再建術式（5）術後管理（6）術後合併症 について理解し、それらの再建手術を助手、ついで**執刀医として研修3年目から手術ができる。**

- ・マイクロサージェリーを導入した遊離組織移植術（切断指再接着術、血管柄付き骨・筋（皮）弁）を助手、ついで**執刀医として研修4年目から手術**ができる。
- ・形成外科関連の学会（日本形成外科学会、日本マイクロサージェリー学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本創傷外科学会、日本褥瘡学会、日本美容外科学会、日本皮膚悪性腫瘍学会、日本口蓋裂学会、日本熱傷学会、日本形成外科手術手技学会、日本頭頸部癌学会、日本レーザー医学会、日本血管腫血管奇形学会など）のうち関心のあるものに入会し、症例報告や基礎・臨床研究の成果を報告発表する。

後期研修プログラムについて

後期研修プログラムでは、大別して（1）大学院・専門医コース(6年間)、もしくは（2）専門医ストレートコース(4年間)、の2つから希望のコースを選択していただきます。コースの概略を下図に示します。



後期研修1年目

- （1）縫合技術（きれいなキズあとにするための真皮・表皮縫合法）、（2）創傷管理

(創の診断、消毒法、創傷被覆法)、(3) 植皮術(創閉鎖法として基本的な分層および全層植皮術)を習得する。

後期研修2年目

(1) 皮弁形成術、(2) 骨・軟骨の採取と移植術を重点的に教育し、形成外科領域の救急疾患(切断指、顔面外傷、熱傷)に対処できる。

後期研修3年目および4年目

(1) 外表先天異常、(2) 悪性腫瘍切除後の再建手術、(3) マイクロサージェリーを駆使した組織移植術、(4) 頻度の高い眼形成外科手技、などを学び、大学病院における4年間の臨床研修の在籍中に、これらの手術を術者として完遂できる。

また、後期研修プログラムでは、症例検討会、抄読会に参加・発表し、学会での講演や論文発表を行うことを奨励しています。医療倫理および医療安全に関するセミナーは、年4回の出席が義務づけられています。

連絡先

形成外科医局 内線 :5102 外線 : 073-441-0972

E-mail : prs@wakayama-med.ac.jp

医局秘書 豊岡まで